講義名	自己発見とキャリア開発Ａ（月火クラス）				
科目区分	全学基幹科目				
担当教員	辻本　千春				
開講期・曜日・時限	前期 月曜日 １時限／前期 月曜日 ２時限／前期 火曜日 １時限／ 前期 火曜日 ２時限				
	2019年度 人間社会学部 人間健康学科／2019年度 人間社会学部 観光学科／2019年度 人間社会学部 人間社会学科／ 2019年度 経済学部 経済情報学科／2019年度 経済学部 経済学科／2019年度 商学部 マーケティング学科／ 2019年度 商学部 経営学科				
履修開始年次	１年生	単位数	8	講義コード	11012

主題と概要

流通科学大学では4年間の教育課程の初めに「気づきの教育」を置いています。気づきの教育の目的は、自発的で積極的な行動を伴う多数の経験を通して得られる様々な「気づき」から、一人一人の「なりたい自分（夢の種）」を探し、それに応じて本学での４年間の学びをより充実させ、意義あるものにすることです。「自己発見とキャリア開発A」は、「気づきの教育」の幹となる必修科目です。
大学での学びや社会に出てからの基礎となる能力について、気づいて向上させます。職や学び、ならびにその関連性について自らに即して気づきます。それらを踏まえて、将来の夢や目標をつかみ、将来を見据えた「４年間の学びの道筋（キャリアビジョン）」を作成します。

到達目標

最終的な到達目標は「Ⅲ」であるが、そのためには、「Ⅰ」、「Ⅱ」をしっかり達成していることが大切です。そうでなければ、「将来の夢や目標」は、幼稚園や小学生の頃の夢や目標と変わらない、単なる思いつきになってしまいます。
Ⅰ．6つの基礎能力の必要性に気づき、自分の現状を知り、向上させること。また今後の継続的な向上のきっかけをつかんでいること。（6つの基礎能力とは、「コミュニケーション力」「常識力」「グループワーク力」「気づき力」「創造力」「学び力」）
Ⅱ．「職」「学び」「両者の関係性」について、自分自身に即して様々な気づきを得ていること。
Ⅲ．様々な気づきに基づき、自分自身に即して考えた上で、自分自身の将来の夢や目標を持ち、将来を見据えた「４年間の学びの道筋（キャリアビジョン）」を獲得していること。

提出課題

講義資料に附属のワークシートを作成し、プログラムによっては、ポスターなどを作成します。これらは、直ちに提出する場合、宿題として提出する場合、学生本人が保管して随時教員がチェックする場合など、様々です。いずれにしても、皆さんの貴重な成果物となります。成果物は、後のプログラムで使う場合があります。講義資料は最後まで絶対になくさないように十分に注意してください。

評価の基準

各プログラムへの取り組み姿勢と上記のⅠ～Ⅲの到達目標が達成されたかどうかによって成績評価します。
取り組み姿勢については、出席状況や取り組みの態度、積極性、真面目さなどで総合的に評価されます。
到達目標が達成されたかどうかは、ワークシートやポスターなどの成果物で判断することになりますが、取り組み姿勢が適切であれば到達目標が達成されるようなプログラムになっています。ワークシート類には自らの気づきを十分反映させ、他者が見て分かる充実したものにして下さい。
遅刻・欠席が多かったり、取り組み姿勢が適切でなければ、低い評価になったり、不合格になったりします。不合格の場合、夏休みの補習への出席や、後期に再履修する必要が生じます。
遅刻や欠席・まじめでない取り組み姿勢は、自分自身が損をするだけではなく、クラスやグループの他のメンバーに迷惑をかけることになるので避けてください。

履修にあたっての注意・助言他

（1）失敗を恐れない：この科目では様々な体験をするが得意なことも苦手なこともあるだろう。失敗してもかまわないので、積極的に取り組んでほしい。失敗から成長が生まれる。
（2）周囲への配慮を忘れない：共に学ぶ仲間を尊重しよう、そして、他の人の取り組みをからかったりばかにしたり、私語や迷惑をかける行為はやめよう。また、フィールド演習などで外部の人と接し、卒業生や企業人をお招きすることもある。普段から言葉遣いやマナーに注意して、社会人としての振る舞い方を身につけよう。
（3）遅刻・欠席は厳禁：自分自身が損をするだけではなく、グループの他のメンバーに迷惑をかけることになる。
（4）楽しもう：この科目を受講した先輩学生の多くは、「大変だけれどもやってみてよかった」「楽しかった」「力がついた」と言っています。皆さんも、積極的に楽しんでこの科目を受講して下さい。
（5）分からないことがあれば、授業中に担当教員に遠慮なく相談すること。

教科書

プリント資料及び参考文献

資料は各プログラムごとに配布する。多数の資料があるので、きちんと整理して保管すること。

授業計画

シラバス作成時点での予定であり、実際の学習計画とは少し異なる可能性があります。クラスミーティング実施時に詳細な計画を配布します。

１．大学生活の基盤づくり （２）と（３）、（４）と（５）については、クラスにより実施順が異なります
（０）クラスミーティング、（１）コミュニケーションキャンプ、（２）建学理念、（３）オリエンテーション、 （４）大学での学び、（５）キャンパスツアー

２．学びの基盤づくり クラスにより実施順は異なります
（１）図書館活用講座、（２）中内功記念館・ダイエー資料館講座、（３）キャンパス・マナー講座、（４）コミュニケーション演習①、（５）適性検査活用講座

３．将来のための自分の基盤づくり
（１）出身学校への手紙作成講座、（２）コミュニケーション演習②、（３）資格特別プログラム講座／職の気づき(全体講話)と事前準備、 （４）先輩との交流①／大学人との交流、（５）卒業生との交流、（６）国際交流プログラム、（７）コミュニケーション演習③、（８）地域に関わる職業人との交流、（９）企業で働く職業人との交流、 （１０）コミュニケーション演習④、（１１）フィールド演習

４．4年間の計画づくり
（１）働く意味と目標設定、（２）先輩との交流②、（３）ポートフォリオ、目標設定スライド作成説明、（４）ポートフォリオ、目標設定スライド作成／個別面談、（５）成果のまとめと発表・今後の課題、（６）成果のまとめと発表・自己発見とキャリア開発Bへ向けて

予習・復習

各プログラムとごとに作成するワークシート、振り返りシートなどは、授業時間中に作成したり、宿題とされる場合もあります。この点で、授業時間外学習時間を確保する必要があります。ただし、ここで強調しておきたいのは、気づきの教育の目的を達成するには、このような科目の評価に関わる予習・復習だけをしておればよいのではないことです。この科目で身に付ける「体験から学ぶ」という態度は、学生生活の様々な場面で生かせるはずです。学生生活のあらゆる場面を「学び・気づき」の場として活用していただくことを、願っています。

備考